

事業所における自己評価総括表

○事業所名	川崎市子ども発達・相談センターアエルみやまえ		
○保護者評価実施期間	令和6年11月13日		～ 令和6年11月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数) 35
○従業者評価実施期間	令和6年11月13日		～ 令和6年11月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	川崎西部地域療育センターが運営することにより医学的見地を含め、最新の発達支援の手法を導入することができます。	<ul style="list-style-type: none"> 川崎西部地域療育センターと日常的に交流し情報入手するようにしています。 西部地域療育センター所長(小児精神科医師)からおよそ月1回スーパーバイズを受けています。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達支援の経験が長い療育センター職員の派遣を検討しています。 心理士、言語聴覚士、作業療法士等によるスーパーバイズを検討しています。
2	保護者支援のプログラムを常に見直し、より充実した育児支援となるよう進めています。	<ul style="list-style-type: none"> ペアレントトレーニングをベースにプログラム(保護者学習会)を実施しています。 西部地域療育センターの保護者プログラムと相互検討しながら経験を積み上げています。 	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市内の子ども・発達相談センター内児童発達支援事業所と連携して保護者支援プログラムの照らし合わせから充実へとつなげたいと考えています。
3	アエルたまと協働しているため、発達支援の手法、使用教材、保護者プログラムの内容は常に共有できており、検討や実施も同時に行っています。	<ul style="list-style-type: none"> 研修の企画は合同で実施しています。 相互に職場交換研修を行い、視野を広げる工夫をしています。 共有後のプログラムは、それぞれの事業所で実践を行いその後の改善点も共有できています。 	<ul style="list-style-type: none"> ミニ研修会の回数を増やしたいと考えています。 外部研修の受講の回数を増やしたいと考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育環境について <ul style="list-style-type: none"> 消防法上、閉ざせない壁があり声の反響が大きくなる場合があります。 小部屋を用意することができず学習会等はパーティションを利用せざるを得ない環境です。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援に必要な教室は確保されているものの学習会や会議で使う部屋を確保しにくい状況です。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談事業との優先順位を整理し学習環境を整えたいと考えています。 当面、パーティションの利用を継続します。
2	新任職員の人材育成に係る時間が不足していると考えられます。職員個人での自己啓発に頼ることが多く組織的な研修計画が進められない現状です。	法人や部署の必須研修は実施していますが、事業所ごとの人材育成研修は、予定した回数を実施できていません。日々の発達支援業務および記録に時間がかかる点が大きな原因と考えています。	現状は、日々の中で経験豊富な職員が実地で指導しています。経験者に頼りすぎないために年間を通した研修計画をたて実施したいと考えます。また、実践のスキルアップに加え、基本的な概念の理解について充実させます。
3	父母会活動等は行なっていません。また、保護者同士の懇談会の時間設定は少なくなっています。	発達を心配している家族に、なるべく待たせず、かつなるべく多くの希望者に早期発達支援を提供することを目的としています。そのため、実際に来所しての利用日は週1回3か月間に設定しています。この間で必要な保護者プログラムを展開しているため、懇談会や父母会活動を深めていくことが困難です。	テーマごとに時間配分を調整し、保護者からの発言が活かされるようなプログラムを検討しています。